

2018年6月7日(木) 第18回JICE研究開発助成 成果報告会

## 高齢者の活動しやすさを支える都市のあり方と その評価に関する研究

助成受付番号:第16010号  
研究課題番号(7)

助成研究者 大阪大学COデザインセンター 土井 勉  
共同研究者 (公財)豊田都市交通研究所 西堀 泰英  
宮津市 安東 直紀  
中央復建コンサルタンツ(株) 白水 靖郎  
同 中矢 昌希  
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 石塚 裕子

### 1. 研究の背景と目的

#### 研究の背景

- ◆ 人々の移動の減少が減少する傾向に加えて、今後人口が減少することで、将来の総交通量が人口以上に減少することを確認した
- ◆ 昨年度の調査で、潜在化した交通や活動が、状況の変化で顕在化するある可能性を確認した  
→潜在化していた、友人との交流や外食など生活に潤いをもたらす「楽しみの活動」が顕在化したことを確認

#### 研究の目的

- ◆ 「楽しみの活動」の実態をより詳細に分析するとともに、バスの存在や地域における象徴的なインフラ(せせらぎ)と「楽しみの活動」との関係进行分析する
- ◆ 分析は、会話人数や会話時間を用いて行い、楽しみの活動を把握するための指標として活用できるかどうかを検討する

### 2. 本研究の位置づけ

- ◆ 楽しみの活動を「生活ゆとり交通」という視点から研究した事例
  - 木村ら(1993)、宮崎ら(2005)、水野ら(2006)
- ◆ 社会のつながりの多寡と寿命に関する研究
  - 石川の著書(2014)に多くの海外研究成果が掲載
- ◆ 会話とインフラの関係に関する研究
  - 阪井ら(2004)
- ◆ 会話と地域コミュニティの居場所に注目した研究
  - 中村ら(2009)
- ◆ 本研究の特徴
  - 多様な楽しみの活動と会話人数や会話時間との関係に注目
  - さらに、地域におけるバスやせせらぎなどのインフラと、地域の人々の活動の関係についても注目

### 3. 調査対象地区の概要

- ◆ 兵庫県神戸市内の4地区を対象
  - 斜面地に開発された、従前から市バスが運行する渦森台と、約10年前に地域の人たちが支えるコミュニティバスが導入された住吉台の2地区
  - 震災復興でせせらぎ水路が整備された松本地区とその周辺の2地区

地区	人口 (H.27国調)
住吉台	1,553
渦森台	3,200
松本地区	1,348
松本周辺	5,016

### 3. 調査対象地区の概要

### 4. 調査の概要

- ◆ 住吉台と渦森台:身近なインフラとしてのバスを想定し、その利用や地域の人たちにとっての役割を質問
- ◆ 松本地区と松本周辺:身近なインフラとしてせせらぎを想定し、まちに対する意識や、せせらぎに対する意識を質問
- ◆ 調査方法:ポスティングにより配布、郵送での回収

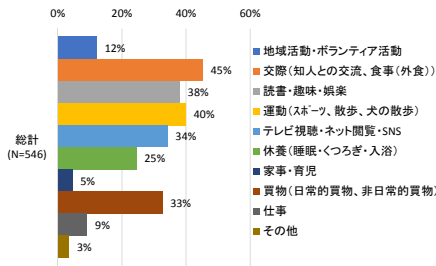
調査概要	
①活動の目的と頻度	
②手段	
③バスの利用★	まちに対する意識☆
④2日間の会話の場所、移動手段、時間と人数	
⑤地域活動への参加	
⑥楽しみにしている活動	
⑦活動能力尺度	
⑧生きがい尺度	
⑨バスの役割★	せせらぎに対する意識☆
⑩フェースシート	

★:住吉台と渦森台 ☆:松本地区と松本周辺

調査票	住吉台	渦森台	松本地区	松本周辺
配布数	400	400	460	400
回収数	223	175	104	44
回収率	56%	44%	23%	11%

### 5. 楽しみの活動に関する分析

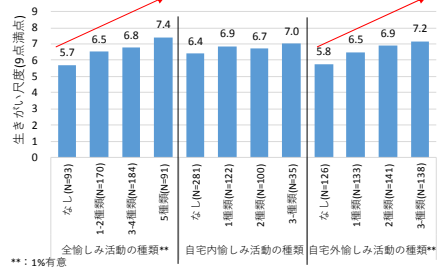
◆ 人々が生活の中で楽しみにしている活動を10に分類して質問



交際、運動、読書等、テレビ視聴等、買物、休養の順に多い  
 赤字は主体的、能動的な活動  
 青字は受動的な活動

### 5. 楽しみの活動に関する分析

◆ 楽しみの活動の個数と「生きがい尺度」との関係



楽しみの活動の回答数が多い人ほど、生きがい尺度の点数が高い  
 楽しみの活動の中でも、自宅外で行うものの方が生きがいと関係している

### 6. 会話と活動の関係

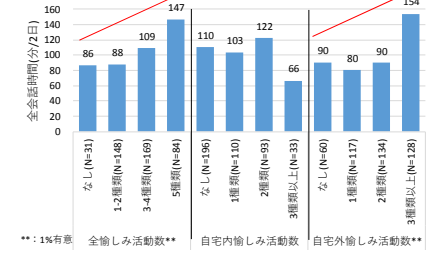
◆ 生きがい尺度と会話の実態  
 ■ 会話の状況から楽しみの活動を理解する

	生きがい尺度(9点満点)	活動種別										回答数又は合計
		日常的買物	非日常的買物	通学・デイケア	食事(外食)	地域の交流	知人との交流	芸術鑑賞・読書	家族との交流	近隣の清掃等	民間購入品の受取	
回答者に占める割合(%)	4.6	14.1	1.7	11.1	28.1	21.1	11.1	1.1	1.1	1.1	100.0	281
7-8点	27.1	11.1	1.7	10.1	19.1	27.1	8.1	11.1	1.1	1.1	7.1	231
9点	30.1	10.1	1.1	15.1	29.1	7.1	8.1	10.1	8.1	2.1	2.1	12.1
合計	33.1	11.1	1.1	13.1	22.1	25.1	7.1	7.1	11.1	7.1	23.1	381
活動数への平均値	3.4	2.8	4.2	5.0	7.8	10.1	2.8	2.8	2.8	2.8	9.8	10.1
標準偏差	4.4	2.0	4.0	4.1	6.9	8.8	8.8	2.8	2.8	2.8	6.9	9.8
7-8点	4.1	3.9	3.8	9.9	6.7	10.0	5.8	3.2	3.2	3.2	9.2	11.3
9点	3.6	3.5	3.4	8.6	10.6	9.8	3.1	3.0	3.1	3.1	7.0	11.8
合計	4.0	3.1	4.8	8.6	7.0	9.8	5.3	2.4	2.4	2.4	7.2	11.8
活動数への平均値	1.8	1.8	2.5	5.2	8.2	9.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.7	7.8
標準偏差	3.0	2.4	3.8	8.4	7.8	4.8	2.4	2.4	2.4	2.4	8.1	15.3
7-8点	2.1	2.0	3.1	4.3	7.2	7.8	4.8	5.3	5.3	5.3	6.0	8.7
9点	1.3	2.4	2.8	6.7	8.6	7.7	4.0	1.6	1.6	1.6	5.7	7.8
合計	2.0	2.2	2.9	4.9	7.2	6.4	4.1	2.7	2.7	2.7	4.0	6.4

項目間の大小関係に一貫性が見られる項目は、食事(外食)、地域活動、全活動計で、生きがい尺度が大きくなるほど、会話人数や会話時間が多くなる傾向

### 6. 会話と活動の関係

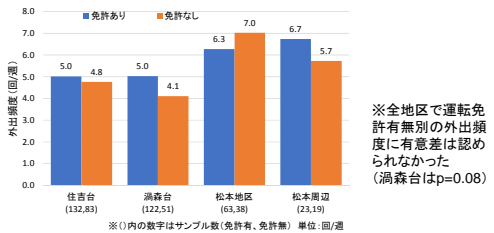
◆ 楽しみの活動数別の会話時間数



楽しみの活動数が多い人は会話も多い傾向にある  
 特に自宅外での活動が3種類の人で、会話の時間が長い  
 ⇒生きがいや楽しみの活動の状況を把握する指標として、会話人数や会話時間を活用できる可能性

### 7. 活動と地域特性に関する分析

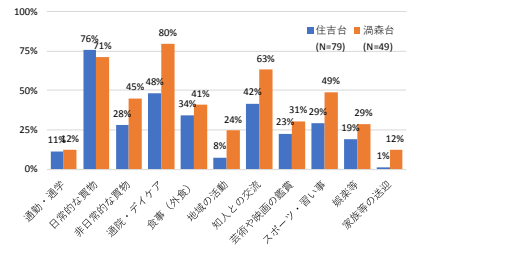
◆ 地区別・運転免許有無別の外出頻度  
 ■ 職業の有無が外出頻度に影響するため「通勤・通学」を除いた1週間の外出回数



高台(住吉台と渦森台)は外出回数が平地にある松本地区や松本周辺に比べて少ない  
 ⇒松本地区や松本周辺では徒歩圏に商店街があるために、気軽に外出を行っているものと考えられる

### 7. 活動と地域特性に関する分析【住吉台・渦森台】

◆ 高台でのバスの役割  
 ■ 運転免許なしの人たちの、バスが存在することで実現する活動の回答割合



両地区とも日常的買物が多い。渦森台では通院・デイケアや知人との交流も多い  
 ⇒買物や通院など必需的な移動だけでなく、知人との交流や食事(外食)などの楽しみの活動も、バスというインフラが支えている

### 7. 活動と地域特性に関する分析 【住吉台・渦森台】

◆ 地区別の運転免許有無別の比較

■ 運転免許の有無で、バスが存在することで実現する活動の回答割合

**住吉台**

免許あり(N=124) 免許なし(N=79)

**渦森台**

免許あり(N=117) 免許なし(N=49)

住吉台では 免許ありの人たちも外食などでバス利用を  
渦森台では通勤・通学、日常的な買物、通院・デイケアで有意差  
住吉台は、約10年前にバスが運行されたことで活動が顕在化し、  
渦森台では住宅地開発段階から市バスが営業 ⇒**バスの存在を前提として居住地を選定していた人たちが多かったため、と考えられる**

### 7. 活動と地域特性に関する分析 【住吉台・渦森台】

◆ バスが地域に与える影響

■ 地域別の回答割合

生活のための移動手段や、安心できる存在が7~8割で大きく、生活を支えるものとして機能  
住吉台では、地域のシンボルや、地域の交流を促す、の回答が多く、  
⇒**バスが住民の努力で運行されていることに関係すると考えられる**

### 7. 活動と地域特性に関する分析 【松本地区・松本周辺】

◆ 松本地区のせせらぎ

- 松本地区では、震災復興の一環としてせせらぎ(水路)を新たに整備
- 毎月地域の人たちによる清掃活動が行われ、ベンチを置くなど大切に管理
- 景観機能やうらおい機能、子供の遊び場機能など、まちの身近なインフラ

◆ 地域とせせらぎの関係

■ 松本地区におけるせせらぎや清掃活動の参加の状況

### 7. 活動と地域特性に関する分析 【松本地区・松本周辺】

◆ 松本地区におけるせせらぎがもたらす役割の回答割合

■ 清掃活動参加状況別の役割の認識

参加状況によらず「地域のシンボル」「通勤路や散歩道」と回答する人が多い。一方、参加者は「清掃活動を通じて交流を促す」と回答  
⇒**清掃活動は面倒ではあるが、共に汗を流すことで地域の人たちの交流を促すことになっていることが示唆される**

### 7. 活動と地域特性に関する分析 【松本地区・松本周辺】

◆ まちづくり活動参加意向と生きがい尺度

■ 参加意向と年齢の関係に着目

「参加している」の生きがい尺度は6.7だが、平均年齢が70.1歳  
上の図の65-74歳と比べて大きな値  
⇒**まちづくり活動に参加意向を持つ人たちは、生活に張りやうらおいをもって生活をしていると考えられる**

### 7. 活動と地域特性に関する分析

◆ 各地区と会話の状況

■ 活動を4種類、移動手段を3種類に集約して会話の実態を地区別に分析

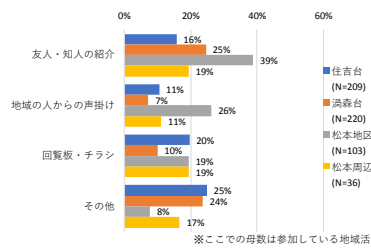
地域	活動種別				移動手段				回答者数(人)	回答者数(%)
	義務的	楽しみ	支える	その他	公共交通(バス)	自転車(徒歩)	その他	全手段		
住吉台	34%	64%	8%	45%	88%	58%	33%	95%	170	
渦森台	40%	58%	19%	42%	87%	51%	40%	83%	148	
松本地区	54%	47%	27%	39%	100%	18%	18%	84%	81	
松本周辺	63%	63%	13%	43%	87%	34%	28%	68%	35	
総計	42%	55%	18%	42%	93%	46%	32%	68%	432	
活動者	5.1	9.0	8.5	8.0	10.9	3.0	1.8	3.2	3.8	14.2
人当たり	4.1	9.2	9.3	7.9	11.7	3.9	2.5	3.5	4.7	15.7
平均年齢	4.0	7.4	10.0	3.1	9.4	2.9	2.5	1.4	2.3	11.4
話人数	4.4	7.9	9.8	3.8	9.5	1.4	0.9	2.6	2.7	11.7
総計	4.4	9.8	8.8	8.0	10.8	3.2	2.0	2.7	3.8	14.0
活動者	3.1	8.1	5.5	3.2	8.3	1.8	1.8	1.8	2.4	10.8
人当たり	2.9	8.2	10.5	8.7	10.7	3.0	1.8	2.0	3.3	13.8
平均年齢	3.7	7.6	5.3	1.9	6.6	1.4	1.9	1.6	1.2	7.7
総計	2.4	6.8	2.9	7.6	7.7	1.9	1.8	1.8	2.8	8.5
松本周辺	2.6	8.4	7.2	4.1	8.7	2.2	1.7	1.3	2.3	10.8
総計	2.6	8.4	7.2	4.1	8.7	2.2	1.7	1.3	2.3	10.8

※活動者率は各活動の値に対する百分率  
※平均年齢は各活動の値に対する百分率  
※活動者率は各活動の値に対する百分率  
※平均年齢は各活動の値に対する百分率  
※活動者率は各活動の値に対する百分率  
※平均年齢は各活動の値に対する百分率

会話人数や会話時間は、各地区で多少のばらつきはあるものの、楽しみの活動で多い傾向は共通  
⇒**今回の研究では地区別の活動と会話の関係について十分に説明できるものとはならなかった**

## 7. 活動と地域特性に関する分析

### ◆ 地域活動に参加したきっかけ



松本地区で顕著なように「友人・知人の紹介」や、「地域の人からの声掛け」が大きな役割

⇒地域活動への参加を増やすためには、地道に友人や知人による声掛けが有効

19

## 8. 終わりに

### ◆ 本研究により得られた主な知見

- 楽しみの活動の中でも多いのが「交際」、「運動」、「読書・趣味・娯楽」、「テレビ・ネット・SNS」であることを把握。上位の3つは能動的な活動
- 楽しみの活動の数と生きがい尺度の点数の増加に関係があることを確認。特に自宅外で行う楽しみの活動への参加を推進する政策が期待される
- 楽しみの活動(特に食事(外食)や地域活動)で生きがい尺度と会話人数や会話時間の関係が類似した傾向にあることを確認でき、会話の実態は楽しみの活動を把握する指標となる可能性が示唆された
- 高台ではバスがあることで楽しみの活動が顕在化することを把握。せせらぎがあることでまちづくりへの参加意向や、生きがい尺度の高い人たちが存在することを把握
- 楽しみの活動について会話の実態から地域の特性把握を試みたが、今回の調査ではこれについて十分な知見を得ることは出来なかった。今後は、回答しやすい設問や、ここで得た楽しみの活動について絞り込んで会話との関係を分析することが課題となる

20

## 8. 終わりに

### ◆ 今後の課題

- 人が集まる広場、店舗、公共施設など身近なインフラについても分析を行い、楽しみの活動や外出との関係についての知見を得ることが課題である
- 本研究の成果を発展させ、さらに楽しみの活動をわかりやすく明快に捉える方法(今回は会話人数や会話時間を指標とした)の開発が期待される
- 自宅外で実施される楽しみの活動は、生きがいに繋がり、まちの賑わいなどにも寄与する可能性がある。自宅外で実施される楽しみの活動が展開される場所や施設の特徴などを整理し、人々が集まる場所のつくり方と、それを評価する指標に関する知見を得ることが期待される

21

## 謝辞

- ◆ 研究は、一般財団法人国土技術研究センター(JICE)の助成金を得て実施したものである。
- ◆ また4つの地区の現地調査やアンケート調査にあつたては、みなと観光バス株式会社、住吉台くるくるバスを守る会の皆様、渦森台の住民や自治会の皆様、松本地区まちづくり協議会や松本地区せせらぎ水路管理会・自治会の皆様など、多くの方々のご協力を得た。
- ◆ ここに記し、心より謝意を表します。

22

## 参考資料

### ◆ 付録: 生きがい尺度について

- 生きがい尺度: 高齢社会を迎えるにあたり老年学の分野等で理論や研究が蓄積されている。ここでは、簡便に生きがいを評価することを提案した今井ら(2009, 2012)が提案している9個の質問項目Ikigai-9を質問した。なお、Ikigai-9では5件法で質問しているが、本調査では調査票の制約上、2件法で質問した。そのため9点満点の指標となっている。
- 下の9問で「はい」と回答した問いの数を集計
  1. 自分は幸せだと感じる人が多いですか
  2. 心にゆとりがありますか
  3. 生活が豊かに充実していますか
  4. なにか新しいことを学んだり始めたいと思いますか
  5. いろいろなものに興味がありますか
  6. 自分の可能性をさらに伸ばしたいですか
  7. 自分が何か他人や社会のために役立っていると思いますか
  8. 自分が誰かや何かのために必要だと思いますか
  9. 自分は誰かに影響を与えていると思いますか
- 今井忠則・長田久雄・西村芳真: 60歳以上退職者の生きがい概念の構造: 生きがい概念と主観的幸福感の相違、老年社会科学, 31(3), pp366-377, 2009
- 今井忠則・長田久雄・西村芳真: 生きがい意識尺度(Ikigai-9)の信頼性と妥当性の検討、日本公衛誌第7号, pp433-439, 2012

23